

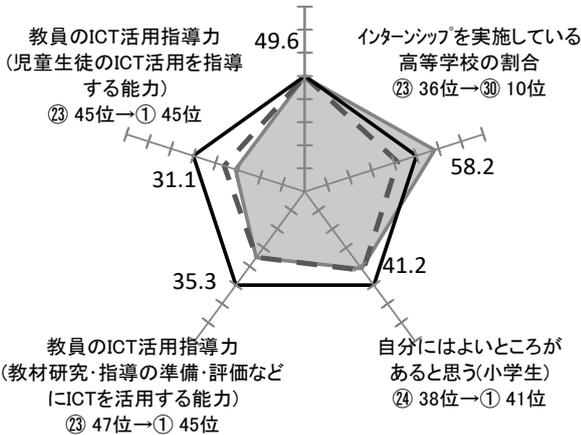
19. 教育の振興

【担当部局等】

文化・教育・くらし創造部、こども・女性局、医療政策局、教育委員会

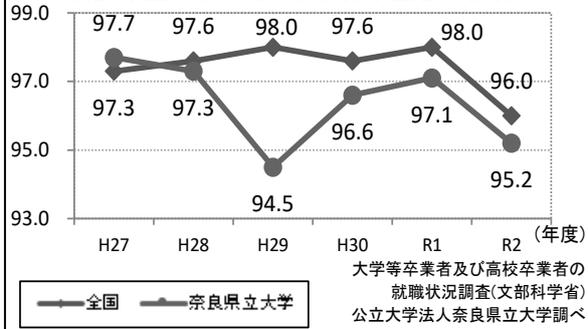
1. 現状分析

奈良県立大学における<sup>(注1)</sup>  
就職希望者の就職率



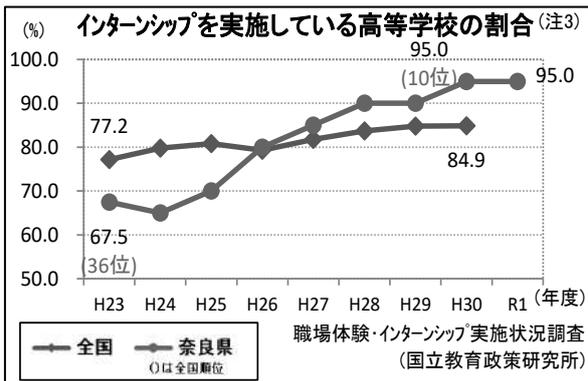
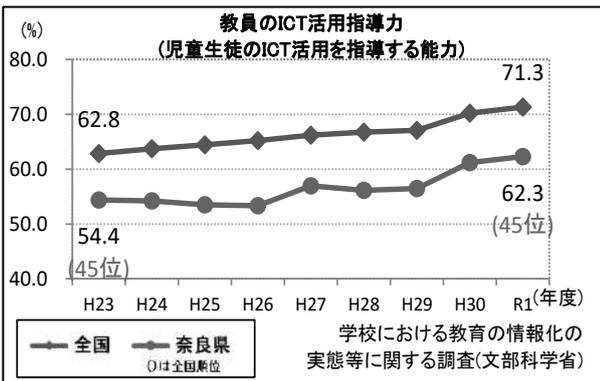
(注1) 全国順位は公表されていないため、記載していません。  
偏差値は、全国平均値を50とした場合の奈良県立大学の比率を記載しています。

奈良県立大学における就職希望者の就職率<sup>(注2)</sup>



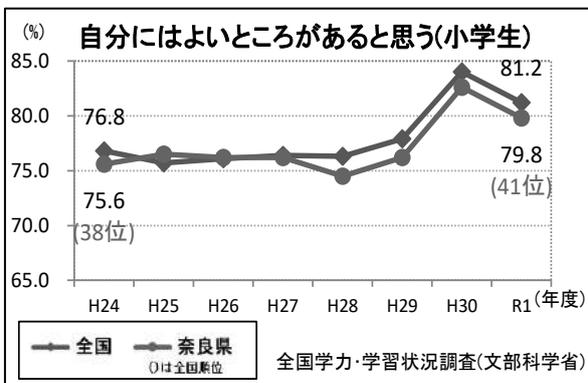
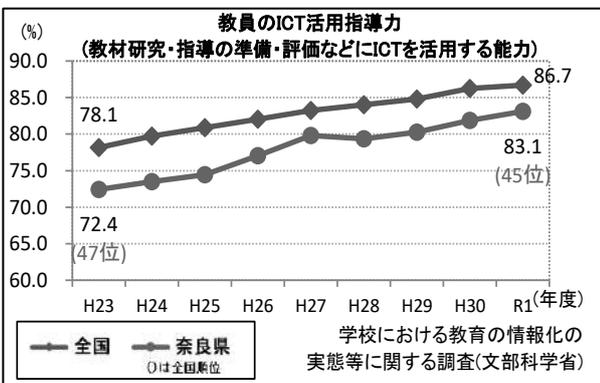
(注2) 全国順位は公表されていないため、記載していません。

令和2年度の奈良県立大学卒業者の就職率は新型コロナウイルス感染症の影響等もあり、95.2%と前年度より1.9ポイント下降しました。



児童生徒1人1台端末の整備に伴い、教員の児童生徒に対するICT活用指導力が早急に求められています。指導力向上のための教員研修を進めているため、着実に向上しています。

インターンシップを実施している高等学校の割合は、全国平均を下回る時期もありましたが、平成26年度以降、全国平均を上回っています。



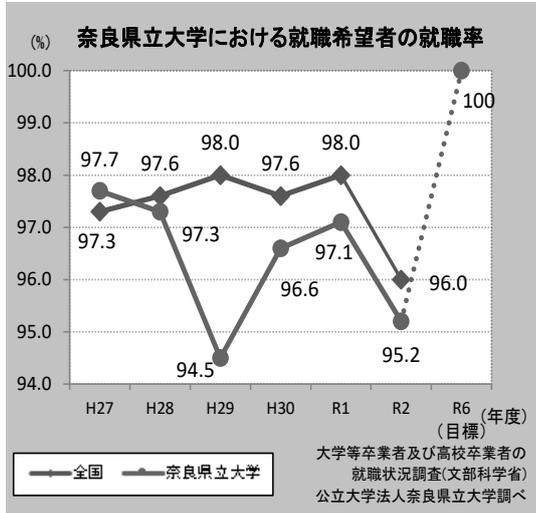
奈良県域統合型校務支援システムの導入に伴い、校務のICT化が進んでいます。また、教育研究所が中心となり、ICT活用に関わる教員研修を行っているため、着実に向上しています。

「自分にはよいところがあると思う」と回答する小学生の割合は79.8%と前年度より2.8ポイント低下し、全国平均を僅かに下回っています。

## 2. 各テーマの「目指す姿」達成に向けた進捗状況

坊	19.教育の振興
テーマ	(104) 県立大学の教育の充実 (105) 県立大学附属高校の設立
目指す姿	令和6年度までに奈良県立大学における就職希望者の就職率を100%にします。

CC(チーフコーディネーター)
(104) 文化・教育・くらし創造部 教育振興課長 小西 倫子
(105) 県立大学 常務理事 辻本 浩司



奈良県立大学における就職希望者の就職率(%)				
基準値		実績値	目標値	進捗率(傾向)
97.7	↘	95.2	100	基準値を2.5ポイント下回りました
H27年度(2015)	▲ 2.5 (ポイント)	R2年度(2020)	R6年度(2024)	5 / 9 年目
直近の指標の動き				
96.6	↗	97.1	↘	95.2
H30年度	0.5 (ポイント)	R1年度	▲ 1.9 (ポイント)	R2年度

指標の動き (基準値からの動向、直近の動き、進捗率等)	進捗状況とその要因 (進捗状況の背景・要因分析等)
令和2年度の奈良県立大学卒業生の就職率は新型コロナウイルス感染症の影響等もあり、95.2%と前年度より1.9ポイント下降しました。	初年次からのキャリア教育の充実や、就活生に対するきめ細かなサポートに取り組み、就職率は上昇傾向にありましたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの業種で採用規模が縮小し、全国的にも就職率が落ち込んだ結果、奈良県も下降しました。

### 「目指す姿」達成に向けた「主な取組」に関する指標の動き

主な取組	関係する指標	指標の動き						
		-	-	176	↗	192	↘	183
教育内容の充実	キャリアデザイン科目の履修者数(人)	-	-	H30	16	R1	▲ 9	R2
		-	-	(2018)	人	(2019)	人	(2020)
		-	-					
教育内容の充実	リハールアーツ科目数(注)(科目)	26	↗	32	↗	36	↗	37
		H29年度	6	H30年度	4	R1年度	1	R2年度
		(2017)	科目	(2018)	科目	(2019)	科目	(2020)

(注)リハールアーツ…物事を総合的に思考するために必要な人文科学・社会科学・自然科学の基礎知識

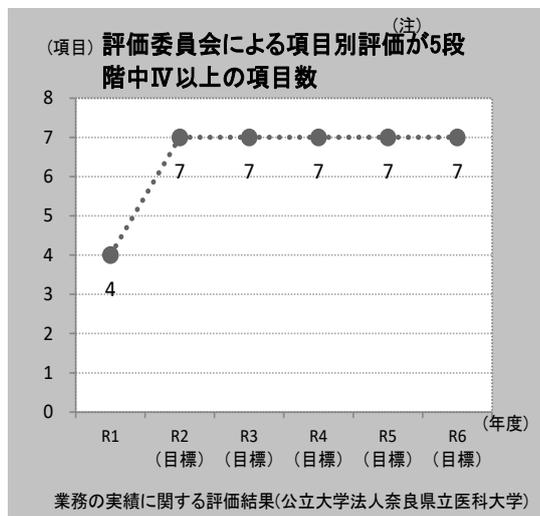
### 「目指す姿」達成に向けた成果・取組

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、採用面接のオンライン実施、合同説明会やインターンシップの中止など、就職活動の環境が大きく変化したため、面接指導や個別相談、学内での業界研究会の開催、「キャリアデザイン」の講義や卒業生とも連携した「就職対策講座」をオンラインで実施するなど、教員とキャリアサポート室が連携し、新たな環境に応じた就職支援を行いました。

令和2年度には、令和3年度から令和8年度の6年間を目標期間とする第2期中期目標の策定を行い、「地域の経済・社会・行政等の分野で活躍する地域リーダーをつくる」ことを今後の長期的な目標とし、新学部の設置や新設する附属高校との高度な高大接続など具体的な目標を定めました。

坊	19.教育の振興
テーマ	(106) 県立医大教育の充実、県立医大教育将来像の深化
目指す姿	令和6年度まで各年度の評価委員会による項目別評価について、全項目5段階中IV以上を目指します。

CC(チーフコーディネーター)
(106) 医療政策局次長 増田 修司



指標	評価委員会による項目別評価が5段階中IV以上の項目数(項目)				
	基準値		実績値	目標値	進捗率(傾向)
	4		4	7	
	R1年度(2019)		R1年度(2019)	R1~R6の6年間	
直近の指標の動き					

(注)評価委員会による項目別評価…地域貢献(教育)(研究)(診療)、教育、研究、診療、法人運営の7項目を5段階評価

進捗状況	指標の動き (基準値からの動向、直近の動き、進捗率等)	進捗状況とその要因 (進捗状況の背景・要因分析等)
	令和元年度の業務実績に関する評価委員会による項目別評価は、7項目中4項目が5段階中IV以上の評価でした。令和元年度が6年間の第3期中期目標期間の初年度となるため、当該年度の評価結果が基準値となります。	県と県立医大で、医大の将来像実現推進会議を年3回開催し、進捗状況の共有や課題の検討・協議を行うことで、中期目標・中期計画の実現に向けた県立医大の取組を推進しました。評価委員会においても、全体として順調に進んでいると評価されましたが、繰越欠損金の増加等の課題があったため、7項目中残りの3項目については、5段階中Ⅲの評価となりました。

「目指す姿」達成に向けた「主な取組」に関する指標の動き

主な取組	関係する指標	指標の動き						
第3期中期目標達成に向けた取組・運営に対する支援	医学科卒業生の県内就業率(%)	57.9	↗	64.5	↘	56.7	↗	57.1
		H29年度(2017)	6.6ポイント	H30年度(2018)	▲7.8ポイント	R1年度(2019)	0.4ポイント	R2年度(2020)
第3期中期目標達成に向けた取組・運営に対する支援	看護学科卒業生の県内就業率(%)	55.6	↗	73.7	↘	68.0	↘	65.0
		H29年度(2017)	18.1ポイント	H30年度(2018)	▲5.7ポイント	R1年度(2019)	▲3.0ポイント	R2年度(2020)

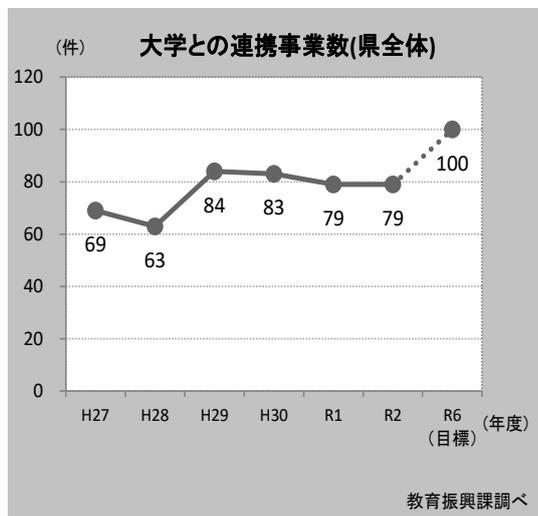
「目指す姿」達成に向けた成果・取組

「心の教育」を軸とした「良き医療人」を育成するため、県補助金を活用し、令和元年度に設置した「医師・患者関係学講座」について、講義で習得した患者の話を「聴く」ちからを実践的な場面で活かすため、臨床実習においても本格導入しました。

県補助金を活用し、平成28年度に本格導入した、奈良への愛着、県内の地域医療に対する意識を育むための授業科目「奈良学」を継続して実施するとともに、学生からの授業評価を踏まえ、授業内容を見直しました。

坊	19.教育の振興
テーマ	(107) 県と大学との連携、県立大学・県立医大と他大学との連携強化
目指す姿	令和6年度までに大学との連携事業数(県全体)を100件にします。

CC(チーフコーディネーター)
(107) 文化・教育・くらし創造部 教育振興課長 小西 倫子



指標	大学との連携事業数(県全体)(件)				
	基準値		実績値	目標値	進捗率(傾向)
	69	↗	79	100	32.3%
	H27年度(2015)	10(件)	R2年度(2020)	R6年度(2024)	5/9 年目
	直近の指標の動き				
	83	↘	79	→	79
	H30年度	▲4(件)	R1年度	0(件)	R2年度

進捗状況	指標の動き (基準値からの動向、直近の動き、進捗率等)	進捗状況とその要因 (進捗状況の背景・要因分析等)
	<p>大学との連携事業数の実績値は、基準値の69件から10件増加し、進捗率は32.3%となりました。なお、直近3年間の状況を見ると、80件前後を維持しています。</p>	<p>大学との連携事業数は、平成28年9月16日に近畿大学との包括的連携に関する協定を締結したこともあり、平成29年度に大幅に増加しました。目標達成に向け、早稲田大学や近畿大学をはじめとする大学との連携協定締結や連携に基づく事業の推進を図り、新規開拓数を維持することにより、毎年80件前後を維持しています。</p>

**「目指す姿」達成に向けた「主な取組」に関する指標の動き**

主な取組	関係する指標	指標の動き						
		8	↗	13	→	13	↗	16
大学との連携推進	教育分野の連携事業数(件)	H29年度(2017)	5件	H30年度(2018)	0件	R1年度(2019)	3件	R2年度(2020)

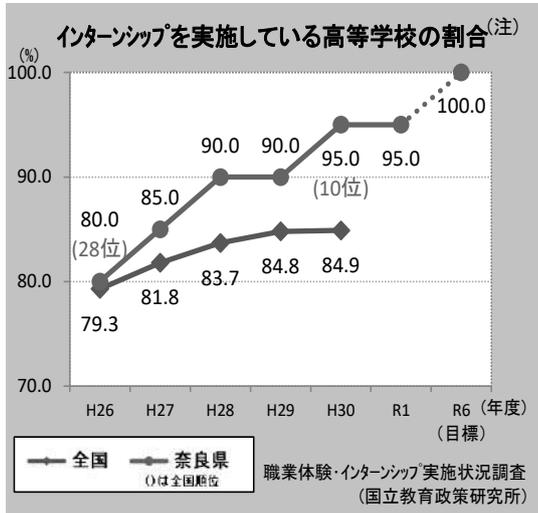
**「目指す姿」達成に向けた成果・取組**

令和2年度は早稲田大学・近畿大学との連携において、「山の辺の道等周辺の農村地域活性化のためのPR事業」や「希少生物と共存できる里山づくり事業」などを実施しました。今後も奈良県大学連合学長会への県内外大学との連携事業の紹介などを通じて、さらなる連携事業の進展を図ります。

令和元年度から始まった中国・清華大学との連携では、奈良県と清華大学との包括交流に関する覚書に基づく交流を進めるため、WEB会議などを活用し、奈良の歴史文化を活用した文化・芸術分野での交流等、具体的な交流事業について協議を進めました。

坊	19.教育の振興
テーマ	(109) 実学教育の充実、インターンシップの推進
目指す姿	令和6年度までにインターンシップを実施している高等学校の割合を100%にします。

CC(チーフコーディネーター)
(109) 教育委員会 学校教育課長 山内 祐司



指標	インターンシップを実施している高等学校の割合(%)				
	基準値		実績値	目標値	進捗率(傾向)
	80.0	↗	95.0	100	75.0%
	H26年度(2014)	15.0(ポイント)	R1年度(2019)	R6年度(2024)	5/10 年目
直近の指標の動き					
	90.0	↗	95.0	→	95.0
	H29年度	5.0(ポイント)	H30年度	0(ポイント)	R1年度

(注)令和元年度の全国値は未公表

進捗状況	指標の動き (基準値からの動向、直近の動き、進捗率等)	進捗状況とその要因 (進捗状況の背景・要因分析等)
	令和元年度のインターンシップを実施している高等学校の割合は、平成26年度から15ポイント増加し95.0%となりました。また、進捗率は75.0%で、目標達成に向けて順調に進捗しています。	県立高等学校での実学教育の一環として県内企業や連携企業等におけるインターンシップを推進してきました。また、奈良県版デュアルシステム(連携企業等と協働し学校での学習と企業での実習を組み合わせる教育システム)の実施や、教育研究所内に設置したキャリアサポートセンターの運用等により、高い水準を維持しています。

**「目指す姿」達成に向けた「主な取組」に関する指標の動き**

※令和2年度の数値がないため、新型コロナウイルス感染症拡大による影響は反映できておりません。

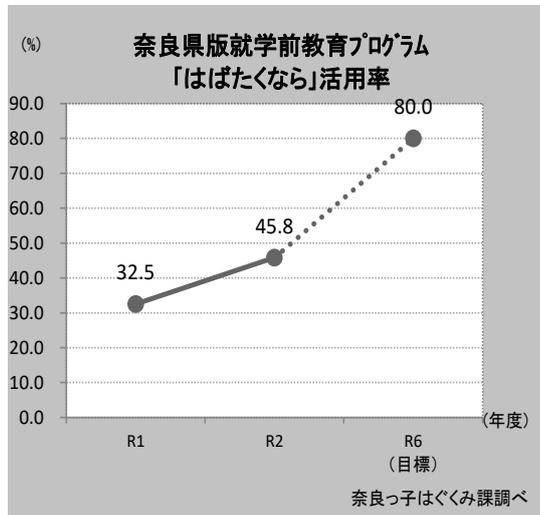
主な取組	関係する指標	指標の動き						
		220	↘	212	↗	268	↘	118
キャリアサポートセンターによる就業支援	インターンシップ申込人数(人)	H29年度(2017)	▲8人	H30年度(2018)	56人	R1年度(2019)	▲150人	R2年度(2020)
		52	↗	66	↗	79	↗	84
県内企業との接点強化	高校生等就職支援会議参加企業数(社)	H28年度(2016)	14社	H29年度(2017)	13社	H30年度(2018)	5社	R1年度(2019)

**「目指す姿」達成に向けた成果・取組**

インターンシップ先の開拓等を行い、その情報を各高校に提供することで、インターンシップ実施率の向上を図りました。また、新型コロナウイルス感染症の影響により実施が難しい状況の中、取組を継続しました。

坊	19.教育の振興
テーマ	(110) 就学前教育の充実
目指す姿	令和6年度までに、奈良県版就学前教育プログラム「はばたくなら」活用率を80%にすることで、自尊心の向上を図ります。

CC(チーフコーディネーター)
(110) こども・女性局 奈良っ子はぐくみ課長 栗田 晃治



奈良県版就学前教育プログラム「はばたくなら」活用率(%)				
基準値		実績値	目標値	進捗率(傾向)
32.5	↗	45.8	80.0	28.0%
R1年度(2019)	13.3(ポイント)	R2年度(2020)	R6年度(2024)	1/5 年目
直近の指標の動き				
		32.5	↗	45.8
		R1年度	13.3(ポイント)	R2年度

進捗状況	指標の動き (基準値からの動向、直近の動き、進捗率等)	進捗状況とその要因 (進捗状況の背景・要因分析等)
	「はばたくなら」策定2年目で活用率が13.3ポイント増加して45.8%となり、進捗率は28.0%と順調に活用が進んでいます。	各種の研修等の機会を捉えての周知や、就学前教育アドバイザー等による支援訪問、「はばたくなら」の実践事例集や普及啓発誌「はばたきの詩」の作成など、就学前教育の現場での実践や普及が進むように取り組んでいます。

**「目指す姿」達成に向けた「主な取組」に関する指標の動き**

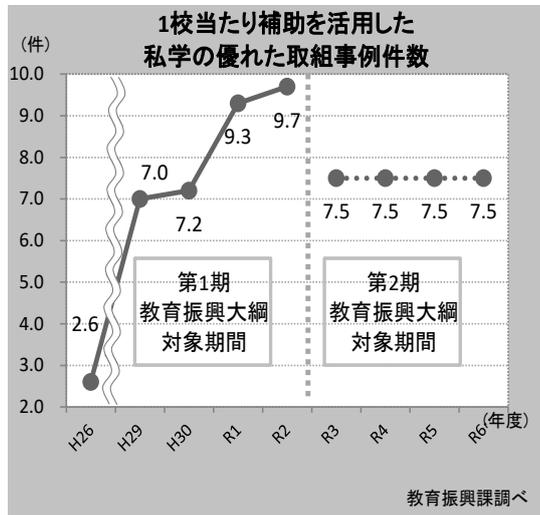
主な取組	関係する指標	指標の動き						
公立幼稚園、認定こども園、保育所における奈良県版就学前教育プログラム「はばたくなら」の活用	「はばたくなら」の活用促進に向けた「はぐくみ講座」受講者数[累計](人)	-	-	-	-	1,240	↗	2,069
		-	-	-	-	R1年度(2019)	829人	R2年度(2020)
		-	-	-	-	-	-	-
「豊かな感性と表現」の育成	音感受への意識を育む講演等実施回数[累計](回)	-	-	-	-	-	-	2
		-	-	-	-	-	-	R1年度(2019)
		-	-	-	-	-	-	-

**「目指す姿」達成に向けた成果・取組**

令和元年度に設置した学識経験者や関係団体の代表等で構成される奈良県就学前教育関係者協議会において、令和2年度も引き続き就学前教育の質の向上に向けた協議を行い、施設類型を超えた研修の一元化や就学前教育の人材育成の方針の作成等の取組を進めています。

坊	19.教育の振興
テーマ	(111) 私学の振興
目指す姿	令和6年度まで補助を活用した私学の優れた取組事例の件数を1校当たり7.5件にします。

CC(チーフコーディネーター)
(111) 文化・教育・くらし創造部 教育振興課長 小西 倫子



指標	1校当たり補助を活用した私学の優れた取組事例件数(件)				
	基準値		実績値	目標値	進捗率(傾向)
	2.6	↗	9.7	7.5	/
	H26年度(2014)	7.1(件)	R2年度(2020)	R3年度~(2021~)	
直近の指標の動き					
	7.2	↗	9.3	↗	9.7
	H30年度	2.1(件)	R1年度	0.4(件)	R2年度

進捗状況	指標の動き (基準値からの動向、直近の動き、進捗率等)	進捗状況とその要因 (進捗状況の背景・要因分析等)
	第1期奈良県教育振興大綱の取組事例件数は、令和2年度に基準値2.6件から7.1件増加し9.7件となりました。平成26年度より毎年度増加しており、前年度において5年早く目標を達成しています。	優良事例の紹介や取組内容の事前相談を行い、積極的に取り組むよう促した結果、いじめ防止対策、感染症対策や新型コロナウイルス感染症をテーマにした教室の開催等の取組が行われ、目標を達成しました。第2期も毎年度7.5件以上の取組件数を目指します。

**「目指す姿」達成に向けた「主な取組」に関する指標の動き**

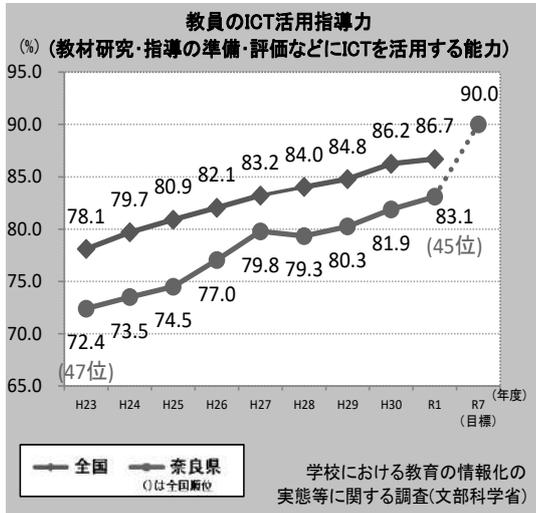
主な取組	関係する指標	指標の動き						
		52	↘	51	↗	53	↗	58
私立学校の優れた取組への支援	いじめ防止対策等の取組(件)	H29(2017)	▲1件	H30(2018)	2件	R1(2019)	5件	R2(2020)

**「目指す姿」達成に向けた成果・取組**

昨今の新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえて、令和2年度は感染リスクの高い項目をとりやめ、感染症対策や新型コロナウイルス感染症に関する正しい知識の指導に係る項目を追加して実施しました。

坊	19.教育の振興
テーマ	(112) 教育ICTの推進
目指す姿	令和7年度までに教員のICT活用指導力(教材研究・指導の準備・評価などにICTを活用する能力)を90.0%にします。

CC(チーフコーディネーター)
(112)
教育委員会
教育研究所 教育情報化推進部長
倉田 嘉人



指標	教員のICT活用指導力 (教材研究・指導の準備・評価などにICTを活用する能力)(%)				
	基準値		実績値	目標値	進捗率 (傾向)
	72.4	↗	83.1	90.0	60.8%
	H23年度 (2011)	10.7 (ポイント)	R1年度 (2019)	R7年度 (2025)	$\frac{8}{14}$ 年目
直近の指標の動き					
	80.3	↗	81.9	↗	83.1
	H29年度	1.6 (ポイント)	H30年度	1.2 (ポイント)	R1年度

進捗状況	指標の動き (基準値からの動向、直近の動き、進捗率等)	進捗状況とその要因 (進捗状況の背景・要因分析等)
	令和元年度は前年度から1.2ポイント増加して、83.1%となりました。進捗率は60.8%で、着実に向上しているものの、全国と比較すると依然として低位の状態が続いています。	教育研究所が中心となり、「奈良県先生応援プログラム」を策定し、各市町村教育委員会と連携しながら、オンラインを中心とした全教職員対象の教員研修を行っています。また、各学校でのICT活用の活性化を目指し、研修リーダーとしてSTEAM教育エバンジェリスト(注)育成の拡大を図っています。これらの研修により、着実に向上しています。

**「目指す姿」達成に向けた「主な取組」に関する指標の動き**

※令和2年度の数値がないため、新型コロナウイルス感染症拡大による影響は反映できておりません。

主な取組	関係する指標	指標の動き						
教育情報化を推進するリーダーの育成	STEAM教育エバンジェリスト育成研修(2018年度以前はICT活用教育エバンジェリスト研修)の受講人数(人)	33	↗	44	↗	156	↗	478
		H29年度 (2017)	11 人	H30年度 (2018)	112 人	R1年度 (2019)	322 人	R2年度 (2020)

**「目指す姿」達成に向けた成果・取組**

教職員の校務を電子化し、効率的に処理するため、令和元年より導入が始まった奈良県域統合型校務支援システムの配備率は約6割となり、令和3年度には8割を超える見込みとなっています。

小中学校に導入した1人1台端末を更に活用するため、「奈良県先生応援プログラム」や「STEAM教育エバンジェリスト育成研修」の対象人数、研修回数ともに充実させてきました。今後も、ICTを活用した分野横断的な学びを推進することのできる人材育成を行います。

(注)STEAM教育エバンジェリスト…先進的、先導的な教育を推進している人材との交流や、施設や学校の視察等を行い、Science、Technology、Engineering、Arts、Mathematicsという領域において、質の高い教育活動を実践・推進できる教員

坊	19. 教育の振興	
テーマ	(108) 県立高校教育の充実	
CC(チーフコーディネーター)	(108)教育政策推進課長 熊谷 啓子	
目指す姿	令和5年度までに高等学校再編を完了し、魅力と活力ある学校づくりを推進します。	進捗状況 「県立高等学校適正化実施計画」に沿って各学校において教育内容検討チーム会議等を実施し、カリキュラムの検討を行っています。令和2年度に国際高校、令和3年度に奈良商工、高円芸術、商業、奈良南高校が開校しました。今後、令和4年度に宇陀高校、令和5年度に国際中学校が開校します。 また、県立学校施設の長寿命化に向けた対策を行うため、「奈良県立学校施設長寿命化整備計画」を令和3年2月に策定しました。

坊	19. 教育の振興	
テーマ	(113) 第2期奈良県教育振興大綱の策定	
CC(チーフコーディネーター)	(113)教育振興課長 小西 倫子	
目指す姿	本県教育の目指す方向性を示す「第2期奈良県教育振興大綱」(令和3年度から令和6年まで)を令和2年度に策定します。	進捗状況 令和3年3月に「第2期奈良県教育振興大綱」を策定し、奈良県教育が目指す方向性を、一人ひとりの「学ぶ力」「生きる力」をはぐくむ「本人のための教育」としました。

### 3. 次年度に向けた課題の明確化

#### 19. 教育の振興

- (104) 県立大学の教育の充実
- (105) 県立大学附属高校の設立
- (106) 県立医大教育の充実、県立医大教育将来像の深化
- (107) 県と大学との連携、県立大学・県立医大と他大学との連携強化
- (108) 県立高校教育の充実
- (109) 実学教育の充実、インターシップの推進
- (110) 就学前教育の充実
- (111) 私学の振興
- (112) 教育ICTの推進
- (113) 第2期奈良県教育振興大綱の策定

#### 内部要因(奈良県内部の状況…ヒト・モノ・カネ等の資源や風土等)

- |  |   |
|--|---|
| <p>＜奈良県の持っている強み＞</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第2期奈良県教育振興大綱の策定</li> <li>2. 奈良県立大学における少人数対話型教育の実践</li> <li>3. 県立医大の教育方針「良き医療人の育成プログラムの実践」</li> <li>4. 「質の高い職業人」育成のための、連携協定企業と協働した実践的な教育の円滑な実施</li> <li>5. 就学前教育の推進に関する施設類型を超えた体制(奈良県就学前教育センター等)を整えている</li> <li>6. 小・中学校の1人1台端末の整備について、県域共同調達により、学校での指導及び教員研修の効率化を実現</li> <li>7. 奈良県域で1つのドメインを活用し、県と市町村が協力・協働する教育の情報化(環境整備・教員研修)を実現</li> </ol> | <p>＜奈良県の抱えている弱み＞</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>8. 県内高校を卒業した生徒の県内進学率が低い</li> <li>9. 県内企業において優秀な技術系人材が不足</li> <li>10. 在宅医療を担う訪問看護師が所属する訪問看護ステーションは小規模事業所が多く、経営基盤が脆弱</li> <li>11. 高校卒業後に就職した者の卒業後3年以内の離職率が高い</li> <li>12. ICT活用研修を実践に結びつけるための環境整備の遅れ</li> <li>13. 県立学施設の耐震化率は100%を達成しておらず、また、老朽化が進んでいる</li> <li>14. 県外就業率が高い</li> </ol> |
|--|---|

外部要因(奈良県外部の状況：社会情勢の変化、制度改正、県民ニーズ等)

#### ＜奈良県への追い風＞

- a. 学習指導要領の改訂、グローバル化やIT化・技術革新の進展
- b. 文部科学省「GIGAスクール構想の加速による学びの保証」の推進
- c. 医師のコミュニケーション能力の重要度の高まり
- d. 看護師の役割の拡大
- e. 保育所保育指針における幼児教育の明確な位置づけ

#### (新型コロナウイルス感染症に関連する追い風)

- f. 新型コロナウイルス感染症の蔓延による休校時にも教育を継続するための、オンライン教育に対するニーズの高まり

#### ＜奈良県への向かい風＞

- g. 教員のICT活用をサポートする人材の不足
- h. 教員養成課程におけるICT活用能力向上に係る教育の遅れ
- i. 福祉人材の不足

#### (新型コロナウイルス感染症に関連する向かい風)

- j. コロナ禍による求人倍率の低下

#### ＜強みで追い風を活かす課題＞

- 【重要課題】第2期奈良県教育振興大綱の推進(1,a,b)
- 【重要課題】奈良県立大学附属高等学校の設置(2,a,b)
- ・「心の教育」を軸とした「良き医療人」の育成(3,c)
- 【重要課題】就学前教育の質の向上(5,e)

#### ＜弱みを踏まえ追い風を活かす課題＞

- ・看護師の質の向上(10,d)
- 【重要課題】教育ICT環境の迅速な整備(12,a,b,f)
- 【重要課題】県立高等学校の教育環境の整備(13,a)

#### ＜強みで向かい風を克服する課題＞

- 【重要課題】実学教育の推進(4,i,j)
- 【重要課題】教員のICT活用能力の向上(6,7,g,h)

#### ＜弱みを踏まえ向かい風に備える課題＞

- ・奈良県立大学の理工系学部の設置(8,9,14,j)
- 【重要課題】キャリア教育の推進(11,14,j)

4. 重要課題等に対するこれまでの評価、取組及びそれらを踏まえた今後の取組方針

《強みで追い風を活かす課題》

課題名	これまでの評価、取組	今後の取組方針
第2期奈良県教育振興大綱の推進(テーマ113))	令和3年3月に第2期奈良県教育振興大綱を策定し、奈良県教育が目指す方向を、一人ひとりの「学ぶ力」と「生きる力」をはぐくむ「本人のための教育」としました。	大綱に基づき、就学前から学齢期、大学等、社会人・シニアといった各ライフステージにおける教育を切れ目なくつなげ、様々な学びの場での教育の振興を積極的に進めていきます。
奈良県立大学附属高等学校の設置(テーマ105))	令和4年4月の奈良県立大学附属高等学校の設置に向け、入試制度や学習課程の検討を進め、学校説明会を実施するなど、開校準備を進めました。	中学生やその保護者、教員などに対し学校説明会や体験会、入試説明会を行い、奈良県立大学附属高等学校の教育目標や、課題探究型の学びを中心としたカリキュラム等を広報し、開校に向けて準備を進めます。
就学前教育の質の向上(テーマ110))	平成31年2月に、本県の教育課題を踏まえ、子どもの発達段階やそれに応じた関わり方等をまとめ、奈良県版就学前教育プログラム「はばたくなら」を作成し、実践方法に関する研修や支援訪問の実施、実践事例集や普及啓発誌の作成などにより、活用を促進してきました。	引き続き、奈良県就学前教育センター等において「はばたくなら」の活用を促進する取組を実施するとともに、就学前教育に関わるすべての人が、子どものはぐくみについて共通の意識を持って取り組めるよう(仮称)奈良っ子はぐくみ基本方針を策定し、重点取組を推進します。

《弱みを踏まえ追い風を活かす課題》

課題名	これまでの評価、取組	今後の取組方針
教育ICT環境の迅速な整備(テーマ112))	奈良県と市町村が協議会を設立し、統合型校務支援システムや小・中学校の1人1台端末の共同調達を実施したことにより、小・中学校はGIGAスクール構想による1人1台端末の整備が進みました。	新型コロナウイルス感染症の蔓延時にもオンラインによる教育の継続につなげるため、整備された教育ICT環境を有効的に活用し、県と市町村が協力・協働してICT環境の更なる整備とデータ活用を力強く進めます。
県立高等学校の教育環境の整備(テーマ108))	令和2年度より、耐震化未了の県立高等学校5校の改築工事に着手しました。(令和4年度完了予定)	新学習指導要領を踏まえ、「魅力と活力あるこれからの高校づくり」を推進するため、令和3年2月に策定した「奈良県立学校施設長寿命化整備計画」に基づき、県立学校の長寿命化改修等の施設整備を推進します。

《強みで向かい風を克服する課題》

課題名	これまでの評価、取組	今後の取組方針
実学教育の推進(テーマ109))	地域企業等との連携による実学教育を推進し、最先端機器の活用や技術者を講師に招聘することにより、実践的な知識の習得、技能の育成を進めてきました。これらにより、勤労観や職業観の育成を図りました。	連携協定企業と協働した実践的な教育の推進に加え、令和3年度に県立榛生昇陽高等学校に介護福祉科の専攻科を設置し、令和4年度には建築・土木系の専攻科を県立奈良南高等学校に設置予定です。さらなる実学教育の充実を図り、即戦力のスペシャリストの育成を目指します。
教員のICT活用能力の向上(テーマ112))	各学校でのICT活用の活性化を目指し、ICTを活用した教育を推進する指導的立場を担う教員(ICT教育エバンジェリスト)を育成するための研修を実施しました。	全ての教室で教員がICTを活用した授業を行うことができるよう、教育研究所が中心となり、より実践的な研修を増やし、教員のICT活用能力の向上を図ります。

《弱みを踏まえ向かい風に備える課題》

課題名	これまでの評価、取組	今後の取組方針
キャリア教育の推進(テーマ109))	平成30年度から令和2年度にかけて、県内公立高等学校を卒業した就職者の離職状況調査を実施しました。またキャリアサポートセンターの支援員による、未内定者への支援を実施しました。	全国数値より高い離職率や新型コロナウイルス感染症の影響による求人動向の変化に対応するために、高等学校におけるインターンシップ等への参加を重視し、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、高校生のキャリア形成を促す教育を進めます。



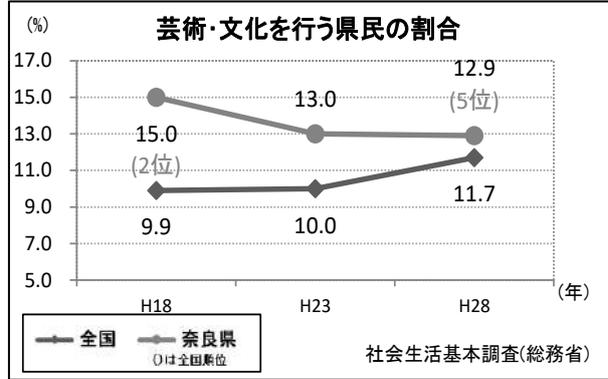
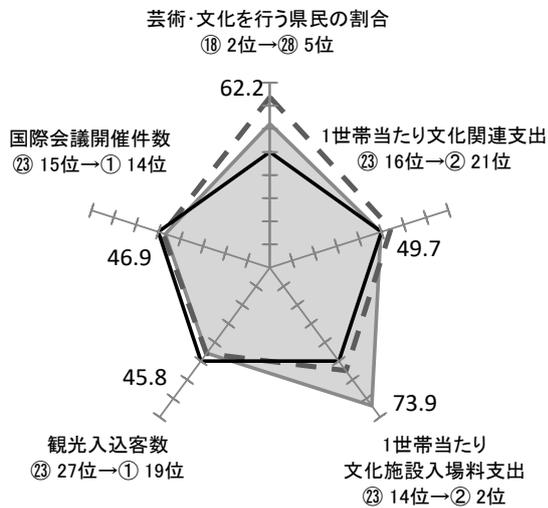
20. 文化財の保存・活用、文化財の防災、文化の振興

21. 海外との交流展開

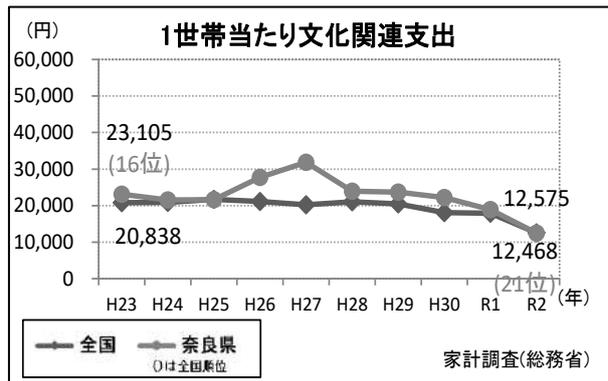
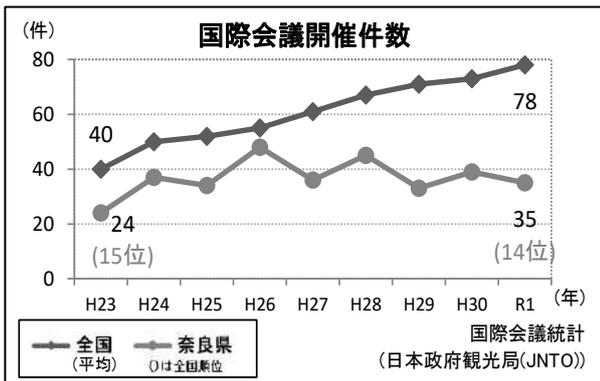
【担当部局等】

知事公室、文化・教育・くらし創造部

1. 現状分析

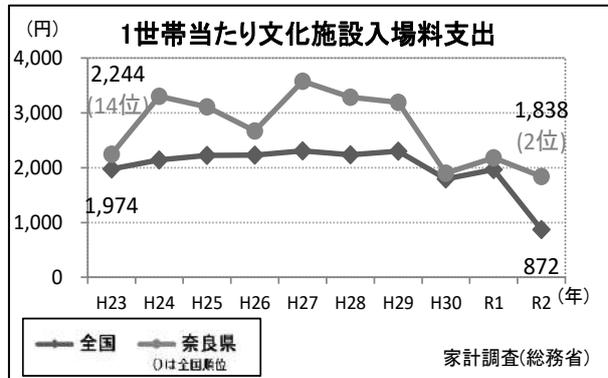
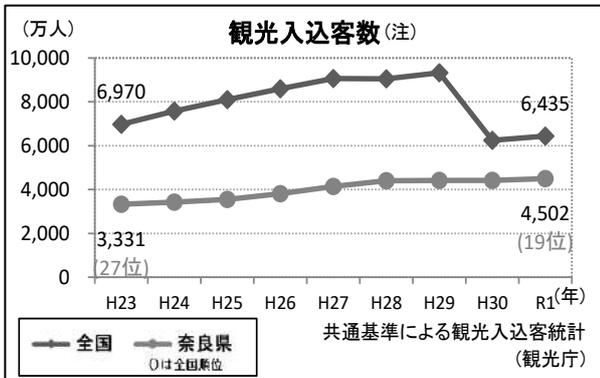


平成28年の芸術・文化を行う県民の割合は、平成18年と比較して2.1ポイント減少していますが、全国平均を上回っています。



令和元年の国際会議件数は、平成23年と比較して11件増加していますが、横ばい傾向が続いています。

令和2年の1世帯当たりの文化関連支出は、平成23年と比較して10,637円減少し、全国平均を下回りました。



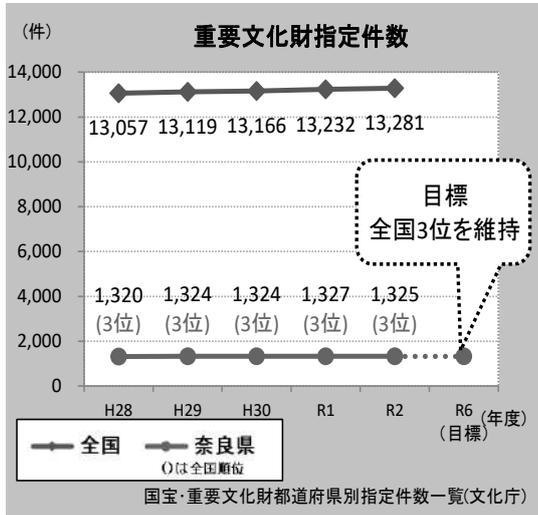
令和元年の観光入込客数は4,502万人で、前年比81万人(1.8%)の増加となりましたが、全国平均と比べ低い状態が続いています。

令和2年の1世帯当たり文化施設入場料支出は、平成23年と比較して406円減少していますが、全国平均を上回っています。

(注) 都道府県により公表時期が異なるため、年により公表されている都道府県数が異なります。H23:43都道府県 H24:43都道府県 H25:44都道府県 H26:44都道府県 H27:43都道府県 H28:44都道府県 H29:40都道府県 H30:36県 R1:32県 (令和3年7月末時点)

## 2. 各テーマの「目指す姿」達成に向けた進捗状況

坊	20.文化財の保存・活用、文化財の防災、文化の振興	CC(チーフコーディネーター)
テーマ	(114) 文化財の保存と活用	(114) 文化・教育・くらし創造部 文化財保存課長 石原 昌伸
目指す姿	令和6年度に重要文化財指定件数全国3位を維持します。	



重要文化財指定件数(件)				
基準値		実績値	目標値	進捗率 (傾向)
1,320	↗	1,325	全国3位を維持	全国3位を維持しました
H28年度 (2016)	5 (件)	R2年度 (2020)	R6年度 (2024)	4/8 年目
直近の指標の動き				
1,324	↗	1,327	↘	1,325
H30年度	3 (件)	R1年度	▲2 (件)	R2年度

進捗状況	指標の動き (基準値からの動向、直近の動き、進捗率等)	進捗状況とその要因 (進捗状況の背景・要因分析等)
	令和2年度の重要文化財指定件数は、全体の件数は昨年度より2件減少して1,325件となりましたが、目標としている全国3位は維持しました。	新たに2件指定がありましたが、既に指定されていた重要文化財について、5件の重要文化財を統合して1件の国宝に指定されたことにより2件の減少となりました。

### 「目指す姿」達成に向けた「主な取組」に関する指標の動き

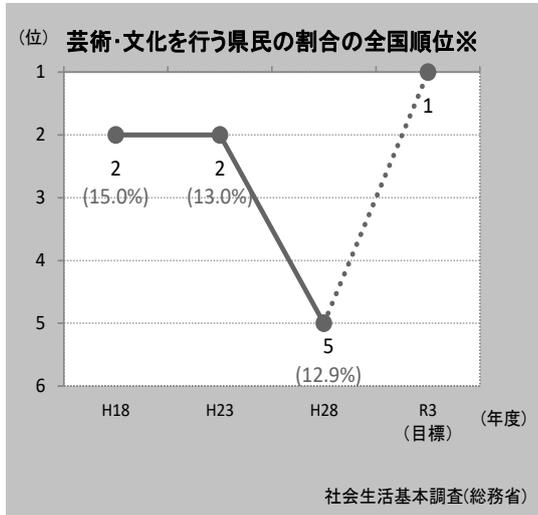
主な取組	関係する指標	指標の動き						
		2017	2018	2019	2020	2021	2022	
文化財の保存修理の促進	文化財保存事業費補助金予算(百万円)	366	↘	336	↗	338	↗	346
		H29年度 (2017)	▲30 百万円	H30年度 (2018)	2 百万円	R1年度 (2019)	8 百万円	R2年度 (2020)
なら歴史芸術文化村での活用に向けた文化財情報の収集及びコンテンツ制作	未指定仏像実態把握調査件数[累計](件)	43	↗	76	↗	85	↗	95
		H29年度 (2017)	33 件	H30年度 (2018)	9 件	R1年度 (2019)	10 件	R2年度 (2020)
飛鳥京跡苑池の発掘調査	発掘調査延べ面積[累計](㎡)	11,054	↗	13,119	↗	13,595	↗	13,977
		H29年度 (2017)	2,065 ㎡	H30年度 (2018)	476 ㎡	R1年度 (2019)	382 ㎡	R2年度 (2020)

### 「目指す姿」達成に向けた成果・取組

国が行う国指定重要文化財の指定に向けた調査・研究に随行し、国と所有者とのパイプ役として積極的に協力しました。	重要文化財の指定候補となる県指定文化財について、奈良県文化財保護審議会に諮問し、調査・研究を行い、答申を得て、令和2年度は新たに7件の指定を行いました。
--	--

坊	20.文化財の保存・活用、文化財の防災、文化の振興
テーマ	(115) 文化財防災対策の構築 (116) 文化振興条例の制定
目指す姿	令和3年度までに芸術・文化を行う県民の割合を全国1位にします。

CC(チーフコーディネーター)
(115)、(116) 文化・教育・くらし創造部 文化財保存課長 石原 昌伸



芸術・文化を行う県民の割合の全国順位※(位)					
指標	基準値		実績値	目標値	進捗率(傾向)
	2	↘	5	全国1位	順位を3位下げました
	H18年度(2006)	3(位)	H28年度(2016)	R3年度(2021)	10/15 年目
直近の指標の動き					
	2	→	2	↘	5
	H18年度	0(位)	H23年度	3(位)	H28年度

※は数値が低い方が良くなる指標です。

進捗状況	指標の動き (基準値からの動向、直近の動き、進捗率等)	進捗状況とその要因 (進捗状況の背景・要因分析等)
	平成18年度は芸術・文化を行う県民の割合が15.0%でしたが、平成28年度は12.9%と減少し、全国順位が2位から5位に下がりました。	全国的な水準が上がったため順位を5位に下げましたが、質の高いイベントを実施し、芸術文化への参加・鑑賞の機会を確保できるよう様々な工夫を行っていることにより、芸術・文化を行う県民の割合は堅調を維持しています。

**「目指す姿」達成に向けた「主な取組」に関する指標の動き**

※令和2年度の数値がないため、新型コロナウイルス感染症拡大による影響は反映できておりません。

主な取組	関係する指標	指標の動き						
		112	↗	124	↗	129	↘	119
「ムジークフェストなら」の開催	「ムジークフェストなら」の来場者数(千人)	H28年(2016)	12千人	H29年(2017)	5千人	H30年(2018)	▲10千人	R1年(2019)

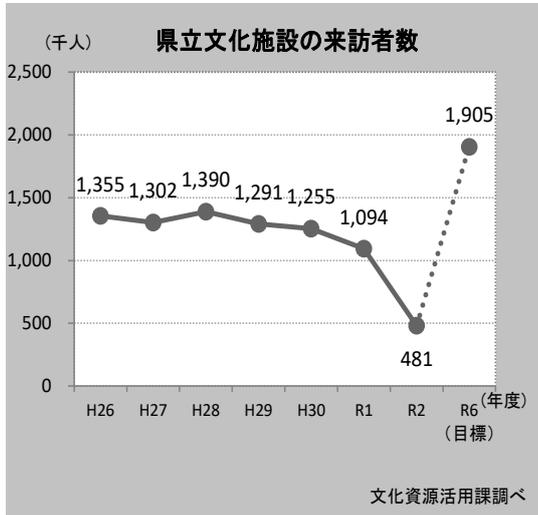
**「目指す姿」達成に向けた成果・取組**

令和2年8月に「文化財防犯・防火・防災関係者連絡会議」を開催し、文化財所有者、警察、消防等関係者間で、災害や火災、犯罪から文化財を守る方法を考える機会を設け、県内の機運醸成に繋がりました。また、文化財の防火対策を総合的かつ計画的に推進するため、「奈良県文化財防火対策推進条例」を令和2年7月に制定し、同年10月から施行しました。

県の目指す文化振興について、基本理念を定め、県の責務や関係者の役割を明らかにするとともに、歴史文化資源の継承と活用及び文化活動の振興を2つの柱とし、文化振興に関する施策の基本的事項を定める「奈良県文化振興条例」を令和3年3月に制定し、同年4月から施行しました。

坊	20.文化財の保存・活用、文化財の防災、文化の振興
テーマ	(117) 文化クラスター事業・日本博事業への参加
目指す姿	令和6年度までに県立文化施設の来訪者数を1,905千人にします。

CC(チーフコーディネーター)
(117) 文化・教育・くらし創造部 文化資源活用課長 中川 智巨



県立文化施設の来訪者数(千人)				
基準値		実績値	目標値	進捗率(傾向)
1,355	↘	481	1,905	基準値を874千人下回りました
H26年度(2014)	▲ 874(千人)	R2年度(2020)	R6年度(2024)	6/10 年目
直近の指標の動き				
1,255	↘	1,094	↘	481
H30年度	▲ 161(千人)	R1年度	▲ 613(千人)	R2年度

指標の動き (基準値からの動向、直近の動き、進捗率等)	進捗状況とその要因 (進捗状況の背景・要因分析等)
<p>進捗状況</p> <p>令和2年度の県立文化施設の来館者数は、基準値の1,355千人から874千人減少しました。また、直近3年間の来館者数は減少傾向であり、令和2年度は大幅に減少しました。</p>	<p>令和2年度は日本博事業として図書情報館で没後1300年となる藤原不比等をテーマに歴史講談や能楽等のイベントを実施しました。また、文化クラスター事業として県立文化施設の展示解説の多言語化等を実施しました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響や、橿原考古学研究所附属博物館の設備更新等による休館等もあり訪問者数は大きく減少しました。</p>

**「目指す姿」達成に向けた「主な取組」に関する指標の動き**

主な取組	関係する指標	指標の動き							
		-	-	-	-	5	↗	10	
日本博事業への参画	日本博事業でのイベント数(件)	-	-	-	-	5	↗	10	
		-	-	-	-	R1年度(2019)			5件
		-	-	-	-	R2年度(2020)			

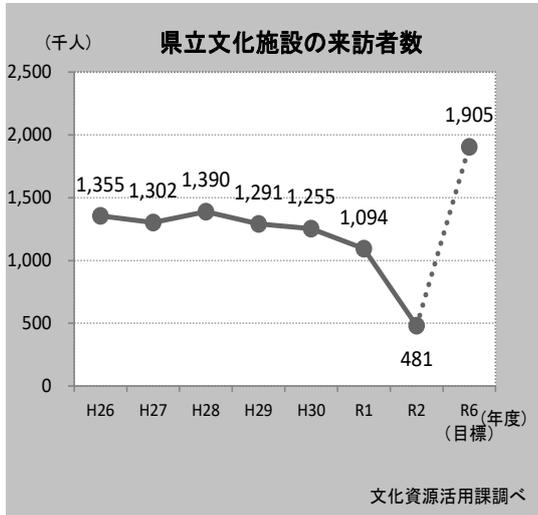
**「目指す姿」達成に向けた成果・取組**

日本博事業の一環として図書情報館や民俗博物館等の県立文化施設で、奈良ゆかりの歴史文化を紹介するイベントを実施したほか、ウナベ古墳の発掘調査現場の公開など奈良の歴史文化資源の魅力を発信し、県立文化施設への訪問のきっかけとなるような取組を実施しました。

文化クラスター事業の一環として、奈良大和四寺巡礼(長谷寺、室生寺、岡寺、安倍文殊院)と連携し、万葉文化館等の割引特典の配布等を実施したほか、県立文化施設の展示解説の多言語化及び日本語表記のユニバーサルデザインフォントへの統一等を実施しました。

坊	20.文化財の保存・活用、文化財の防災、文化の振興
テーマ	(118) 記紀万葉プロジェクトのこれから
目指す姿	令和6年度までに県立文化施設の来訪者数を1,905千人にします。

CC(チーフコーディネーター)
(118) 文化・教育・くらし創造部 文化資源活用課長 中川 智巨



県立文化施設の来訪者数(千人)				
基準値		実績値	目標値	進捗率(傾向)
1,355	↘	481	1,905	基準値を874千人下回りました
H26年度(2014)	▲ 874(千人)	R2年度(2020)	R6年度(2024)	6/10 年目
直近の指標の動き				
1,255	↘	1,094	↘	481
H30年度	▲ 161(千人)	R1年度	▲ 613(千人)	R2年度

進捗状況	指標の動き (基準値からの動向、直近の動き、進捗率等)	進捗状況とその要因 (進捗状況の背景・要因分析等)
	令和2年度の県立文化施設の来館者数は、基準値の1,355千人から874千人減少しました。また、直近3年間の来館者数は減少傾向であり、令和2年度は大幅に減少しました。	令和2年は記紀・万葉プロジェクト集大成年に当たり、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いていた秋頃を中心にシンポルイベントや連続講演会などのイベントを開催しました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響や、橿原考古学研究所附属博物館の設備更新等による休館等もあり訪問者数は大きく減少しました。

**「目指す姿」達成に向けた「主な取組」に関する指標の動き**

主な取組	関係する指標	指標の動き						
記紀・万葉プロジェクトの推進	ホームページ「記紀・万葉プロジェクト」のアクセス数(件)	142,444	↘	136,849	↗	244,708	↗	252,399
		H29年(2017) ▲ 5,595件	H30年(2018) 107,859件	R1年(2019) 7,691件	R2年(2020)			
記紀・万葉プロジェクトの推進	補助金を通じた推進への支援数(件)	20	↘	19	↘	16	↘	9
		H29年度(2017) ▲ 1件	H30年度(2018) ▲ 3件	R1年度(2019) ▲ 7件	R2年度(2020)			

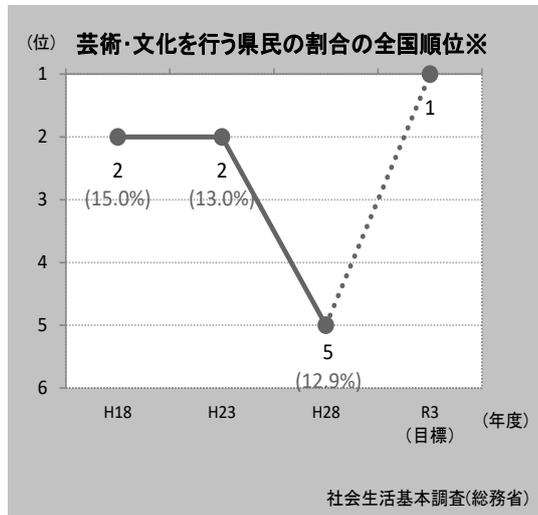
**「目指す姿」達成に向けた成果・取組**

連続講演会やシンポルイベントなどの集客イベントについては、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いていた時期に開催日を変更し、客席の間隔を空けるなど感染対策を講じたうえで開催しました。また、イベント参加者以外にも広く内容を伝えられるようオンライン配信するなどの取組を行いました。

記紀・万葉ポータルサイトの運営等、情報発信の取組において、SNSでフォロー数が多いイラストレーターや漫画家が制作した来年度の主要テーマとなる聖徳太子のイラストや漫画をホームページに掲載するなど、奈良県の歴史文化資源に対するファン層拡大のため、若年層のアクセス増加を図る取組を実施しました。

坊	20.文化財の保存・活用、文化財の防災、文化の振興
テーマ	(120) なら歴史芸術文化村の活用策の検討
目指す姿	令和3年度までに芸術・文化を行う県民の割合を全国1位にします。

CC(チーフコーディネーター)
(120) 文化・教育・くらし創造部次長 三原 耕治



芸術・文化を行う県民の割合の全国順位※(位)				
基準値		実績値	目標値	進捗率(傾向)
2	↘	5	全国1位	順位を3位下げました
H18年度(2006)	3(位)	H28年度(2016)	R3年度(2021)	10/15 年目
直近の指標の動き				
2	→	2	↘	5
H18年度	0(位)	H23年度	3(位)	H28年度

※は数値が低い方が良くなる指標です。

進捗状況	指標の動き (基準値からの動向、直近の動き、進捗率等)	進捗状況とその要因 (進捗状況の背景・要因分析等)
	平成18年度は芸術・文化を行う県民の割合が15.0%でしたが、平成28年度は12.9%と減少し、全国順位が2位から5位に下がりました。	全国的な水準が上がったため順位を5位に下げましたが、質の高いイベントを実施し、芸術文化への参加・鑑賞の機会を確保できるよう様々な工夫を行っていることにより、芸術・文化を行う県民の割合は堅調を維持しています。

「目指す姿」達成に向けた「主な取組」に関する指標の動き

※令和2年度の数値がないため、新型コロナウイルス感染症拡大による影響は反映できておりません。

主な取組	関係する指標	指標の動き						
プログラムの展開	Facebook「なら歴史芸術文化村」のアクセス数(件)	-	-	-	-	-	-	9,310
		-	-	-	-	-	-	R2年度(2020)
		-	-	-	-	-	-	

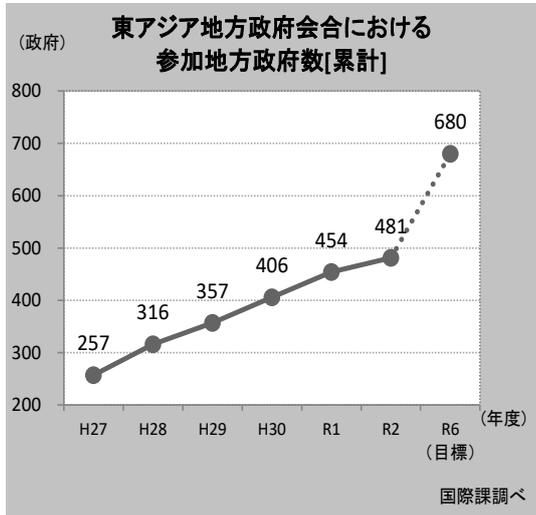
「目指す姿」達成に向けた成果・取組

文化財の修復工房、展示室やアートスタジオ、イベントホール等の歴史・芸術文化施設としての機能に加えて、レストラン、ショップ、観光案内等、道の駅の機能も有する複合施設(4棟)が概ね完成しました。(令和4年3月開村予定)

開村時より、文化財の修復公開・解説や企画展示をはじめ、芸術を通して豊かな人間性を育む幼児向けプログラムといった歴史芸術文化活動の拠点としての取組が円滑に展開できるよう、外部有識者(構想等検討委員会、コミッション)等の意見も聞きながら、施設機能・コンテンツ・専門人材が一体となった活用方策を検討しました。

坊	21.海外との交流展開
テーマ	(121) 東アジア地方政府会合の充実発展
目指す姿	令和6年度までに東アジア地方政府会合における参加地方政府数(累計)を680地方政府にします。

CC(チーフコーディネーター)
(121) 知事公室 国際課長 辻 祥子



指標	東アジア地方政府会合における参加地方政府数[累計](政府)				
	基準値		実績値	目標値	進捗率(傾向)
	257	↗	481	680	53.0%
	H27年度(2015)	224(政府)	R2年度(2020)	R6年度(2024)	5/9 年目
直近の指標の動き					
	406	↗	454	↗	481
	H30年度	48(政府)	R1年度	27(政府)	R2年度

進捗状況	指標の動き (基準値からの動向、直近の動き、進捗率等)	進捗状況とその要因 (進捗状況の背景・要因分析等)
	令和2年12月に奈良県で開催した東アジア地方政府会合「観光分科会」に国内の27会員地方政府が参加し、参加地方政府数の累計は481となりました。基準値である平成27年度の257地方政府から224増加し、進捗率は53.0%となっています。	新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、海外との往来が難しい中、インドネシア・西ジャワ州での第11回会合は延期となりましたが、国内地方政府を対象とした「観光分科会」をオンライン・オフラインのハイブリッドで工夫して開催し、27会員地方政府及び特別会員等8機関が参加しました。

**「目指す姿」達成に向けた「主な取組」に関する指標の動き**

主な取組	関係する指標	指標の動き						
		70	↗	72	↗	73	↗	74
地方政府等の会員への加入促進	東アジア地方政府会合の会員地方政府数[累計](会員)	H29年度(2017)	2	H30年度(2018)	1	R1年度(2019)	1	R2年度(2020)
		会員	会員	会員	会員			
海外開催の推進	海外開催の開催件数(全体会合及び分科会)[累計](件)	H29年度(2017)	0	H30年度(2018)	0	R1年度(2019)	0	R2年度(2020)
		件	件	件	件			
県内外へのさらなる情報発信	県内高校生の会合運営補助への参加人数[累計](人)	H29年度(2017)	9	H30年度(2018)	11	R1年度(2019)	0	R2年度(2020)
		人	人	人	人			

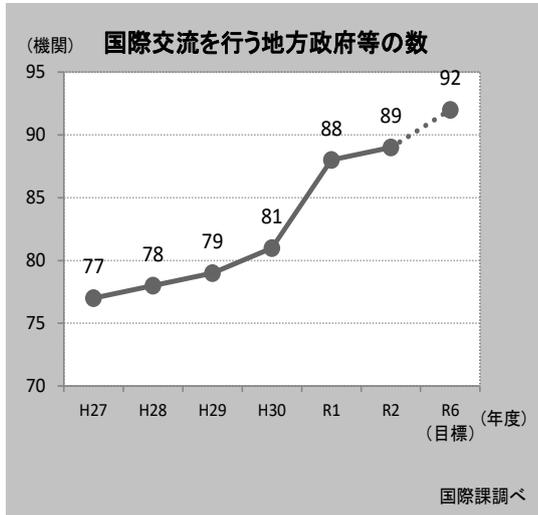
**「目指す姿」達成に向けた成果・取組**

インドネシア・西ジャワ州で開催する第11回東アジア地方政府会合は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえ、令和4年度に再延期して現地開催することとなりました。会員地方政府の交流や相互理解をさらに深め合える意義のある会合となるよう、西ジャワ州とオンライン会議を重ね、準備を進めています。

令和2年12月に、東アジア地方政府会合「観光分科会」をハイブリッド形式により開催しました。「新型コロナウイルスと共存する時代の観光振興」をテーマに、会員地方政府の事例発表や意見交換等を通じて、実務者の行政能力向上に取り組みました。

坊	21.海外との交流展開
テーマ	(122) 既交流団体との交流強化、新たな交流団体との提携
目指す姿	令和6年度までに国際交流を行う地方政府等の数を92機関にします。

CC(チーフコーディネーター)
(122) 知事公室 国際課長 辻 祥子



指標	国際交流を行う地方政府等の数(機関)				
	基準値		実績値	目標値	進捗率(傾向)
	77	↗	89	92	80.0%
	H27年度(2015)	12(機関)	R2年度(2020)	R6年度(2024)	5/9 年目
	直近の指標の動き				
	81	↗	88	↗	89
	H30年度	7(機関)	R1年度	1(機関)	R2年度

進捗状況	指標の動き (基準値からの動向、直近の動き、進捗率等)	進捗状況とその要因 (進捗状況の背景・要因分析等)
	国際交流を行う地方政府等の数は令和元年度から1増え、令和2年度には89機関となりました。基準値である平成27年度からは12増加し、進捗率は80.0%となっています。	新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、海外との往来が難しい状況下においても、東アジア地方政府会合の充実発展に向けた新規加入の促進など、新たな交流団体との連携に取り組んだ結果、令和2年度は中国・貴州省が東アジア地方政府会合会員へ新規加入しました。

**「目指す姿」達成に向けた「主な取組」に関する指標の動き**

主な取組	関係する指標	指標の動き						
		基準値		実績値		目標値		進捗率
スイスの制度を参考にした新たな森林環境管理制度の構築	林業分野における技術講習等への派遣人数[累計](人)	31	↗	45	↗	60	→	60
		H29年度(2017)	14人	H30年度(2018)	15人	R1年度(2019)	0人	R2年度(2020)
中国・陝西省等友好提携先との交流	次世代養成事業における青年派遣人数[累計](人)	80	↗	95	↗	101	→	101
		H29年度(2017)	15人	H30年度(2018)	6人	R1年度(2019)	0人	R2年度(2020)
中国・陝西省等友好提携先との交流	海外との青少年スポーツ交流人数[累計](人)	17	↗	34	↗	50	→	50
		H29年度(2017)	17人	H30年度(2018)	16人	R1年度(2019)	0人	R2年度(2020)

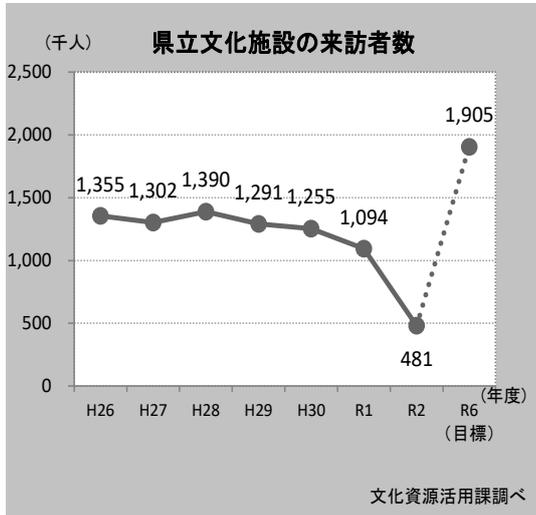
**「目指す姿」達成に向けた成果・取組**

令和元年8月に包括交流に関する覚書を締結した中国清華大学とは、新型コロナウイルス感染症の影響により、往来が難しい中ですが、WEB会議などを活用し、奈良の歴史文化を活用した文化・芸術分野での交流等、具体的な交流事業について協議を進めました。

令和3年3月に、ウズベキスタンの歴史・文化を紹介する文化交流イベント「ナウルズ in 奈良」を開催し、約180名の方々にご来場いただきました。また、BCC(バスカリナリセンター)とNAFICとの連携による交流事業の展開について、協議を継続しています。

坊	21.海外との交流展開
テーマ	(123) 奈良の仏像、文化財の海外展示のこれから
目指す姿	令和6年度までに県立文化施設の来訪者数を1,905千人にします。

CC(チーフコーディネーター)
(123) 文化・教育・くらし創造部 文化資源活用課長 中川 智巨



県立文化施設の来訪者数(千人)				
基準値		実績値	目標値	進捗率(傾向)
1,355	↘	481	1,905	基準値を874千人下回りました
H26年度(2014)	▲ 874(千人)	R2年度(2020)	R6年度(2024)	6/10 年目
直近の指標の動き				
1,255	↘	1,094	↘	481
H30年度	▲ 161(千人)	R1年度	▲ 613(千人)	R2年度

	指標の動き (基準値からの動向、直近の動き、進捗率等)	進捗状況とその要因 (進捗状況の背景・要因分析等)
進捗状況	令和2年度の県立文化施設の来館者数は、基準値の1,355千人から874千人減少しました。また、直近3年間の来館者数は減少傾向であり、令和2年度は大幅に減少しました。	平成31年1月から3月にフランス・ギメ東洋美術館、令和元年10月から11月にイギリス・大英博物館で仏像展を開催し、令和2年度はその波及効果が見込まれていました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響や、橿原考古学研究所附属博物館の設備更新等による休館等もあり訪問者数は大きく減少しました。

**「目指す姿」達成に向けた「主な取組」に関する指標の動き**

主な取組	関係する指標	指標の動き						
奈良の仏像等海外展示の検討	外国人宿泊者数(万人)	39	↗	44	↗	54	↘	5
		H29年度(2017)	5万人	H30年度(2018)	10万人	R1年度(2019)	▲ 49万人	R2年度(2020)

**「目指す姿」達成に向けた成果・取組**

ギメ東洋美術館、大英博物館の仏像展において、奈良の魅力を大いに発信し、令和2年度には、パネル展示など国内向け成果報告にも取り組みました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止による海外渡航制限や国内観光の自粛のため、見込まれたインバウンド効果を得ることができませんでした。

令和2年度は、来たるインバウンド回復期を見据え、アフターコロナにおける海外発信事業の検討を行いました。奈良の歴史文化と最も結びつきの強い中国、奈良ゆかりの古美術コレクションを豊富に蔵する米国での展覧会開催に向け、準備・調整を進めました。

坊	20. 文化財の保存・活用、文化財の防災、文化の振興	
テーマ	(119) 飛鳥・藤原の世界遺産登録	
CC(チーフコーディネーター)	(119)文化資源活用課長 中川 智巨	
目指す姿	令和4年度の国内推薦候補への選定、令和6年度の「飛鳥・藤原」の世界遺産登録を目指します。	進捗状況 令和3年3月に推薦書(素案)を文化庁へ提出しました。令和4年の国内推薦候補への選定にむけて、令和3年度は推薦書(素案)のブラッシュアップや包括的保存管理計画の策定など必要な準備を行います。さらに、令和2年度に『世界遺産ジャーナル』を創刊し、世界遺産の価値を多くの県民と共有し、「飛鳥・藤原」の世界遺産登録の機運醸成を図っています。

### 3. 次年度に向けた課題の明確化

#### 20. 文化財の保存・活用、文化財の防災、文化の振興 21. 海外との交流展開

- (114) 文化財の保存と活用
- (115) 文化財防災対策の構築
- (116) 文化振興条例の制定
- (117) 文化クラスター事業・日本博事業への参加
- (118) 記紀万葉プロジェクトのこれから
- (119) 飛鳥・藤原の世界遺産登録
- (120) なら歴史芸術文化村の活用策の検討
- (121) 東アジア地方政府会合の充実発展
- (122) 既交流団体との交流強化、新たな交流団体との提携
- (123) 奈良の仏像、文化財の海外展示のこれから

#### 内部要因(奈良県内部の状況…ヒト・モノ・カネ等の資源や風土等)

- |   |  |
|---|--|
| <p>＜奈良県の持っている強み＞</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「芸術・文化」を行う県民の割合が12.9%で、全国で5位であり、文化芸術活動に関する家計支出額が全国的に見て高い分野が多い</li> <li>2. 3つの世界遺産をはじめとして文化遺産が豊富</li> <li>3. 令和3年8月1日現在、国指定重要文化財の指定件数は全国3位、特に国宝のうち彫刻は全国140件中奈良県76件(54%)、同じく建造物は228件中64件(28%)と全国1位の件数</li> <li>4. 奈良県文化振興条例の策定</li> <li>5. 東アジア地方政府会合を契機とした東アジア諸国との深いつながり</li> <li>6. 中国、韓国、中央アジア等との古代からの国際交流</li> <li>7. 中国・陝西省、韓国・忠清南道、スイス・ベルン州、ベトナム・フートー省との友好提携等</li> </ol> | <p>＜奈良県の抱えている弱み＞</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>8. 多くの観客を収容できる施設が少なく、トップアーティストの招聘が困難</li> <li>9. 文化活動発表の場が少なく、アーティストは県外に活動拠点を求める傾向</li> <li>10. 県立の文化施設が老朽化</li> </ol> |
|---|--|

外部要因(奈良県外部の状況…社会情勢の変化、制度改正、県民ニーズ等)

#### ＜奈良県への追い風＞

- a. 「国民文化祭」「全国障害者芸術・文化祭」の成果の継承
- b. 文化財を次世代に確実に継承する機運醸成
- c. 第11回東アジア地方政府会合のインドネシア・西ジャワ州開催
- d. 中国・陝西省、韓国・忠清南道との友好提携10周年
- e. 2022年は日本と中央アジアとの外交樹立30周年

#### ＜奈良県への向かい風＞

- f. 著名なアーティストや作品は大都市での公演、展示に集中する傾向
- g. 過疎化・少子高齢化等の社会状況の変化を背景に各地域の貴重な文化財の滅失・散逸等の防止が緊急の課題

(新型コロナウイルス感染症に関連する向かい風)

- h. 新型コロナウイルス感染症の感染防止のためイベント等の開催が制限される
- i. 新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延による対面での交流機会の制限

#### ＜強みで追い風を活かす課題＞

- 【重要課題】なら歴史芸術文化村の活用策の検討(1,2,3,4,b)
- 【重要課題】東アジア地方政府会合充実発展、国際交流の強化・拡大(5,6,7,c,d,e)
- ・本県の強みである歴史文化資源活用分野と芸術文化振興分野に力点を置いた施策推進(1,2,3,4,a)
- ・文化財の防火対策の構築(3,b)

#### ＜弱みを踏まえ追い風を活かす課題＞

- 【重要課題】文化芸術団体や個人が行う発表の場の拡充(9,10,a)

#### ＜強みで向かい風を克服する課題＞

- 【重要課題】奈良だからこそできる音楽祭の開催(1,f,h)
- ・インターネット等を活用したイベントの新しい開催方法の検討(1,f,h)
- 【重要課題】コロナ禍における国際交流の推進(5,6,7,i)
- ・文化財の保存と活用の基本的な方向性を明確化し、県内の各種の取組を進めていく上での共通の基盤となる奈良県文化財保存活用大綱の策定(3,g)

#### ＜弱みを踏まえ向かい風に備える課題＞

- 【重要課題】県立文化施設の整備・改修等(8,10,f)

4. 重要課題等に対するこれまでの評価、取組及びそれらを踏まえた今後の取組方針

《強みで追い風を活かす課題》

課題名	これまでの評価、取組	今後の取組方針
なら歴史芸術文化村の活用策の検討(テーマ(120))	施設整備の進捗と並行して、開村時から円滑に取組展開ができるよう、外部有識者など多くの関係者の意見も聴きながら、歴史芸術文化活動の拠点としての活用策を精査・検討しました。	新たに制定された奈良県文化振興条例の理念である、歴史文化資源の継承と活用、文化活動の振興を両輪とする、なら歴史芸術文化村の価値をより一層高めるため、国内外の歴史・芸術文化関係者(施設)との交流や、施設運営や取組展開に関する関係者との具体的な意見交換等を踏まえながら、活動内容について、精査・検討を深めます。
東アジア地方政府会合充実発展、国際交流の強化・拡大(テーマ(121,122))	過去10回開催した会合は国内外からも高く評価され、第11回会合はインドネシア・西ジャワ州での開催が決定するなど、広がりを見せています。また、中国・陝西省、韓国・忠清南道、イスパル州等の友好提携締結地方政府だけでなく、海外の大学や団体とも積極的に連携し、互いが学び合える有益な交流を実施してきました。	第11回会合(インドネシア・西ジャワ州)に引き続き、今後も海外での開催を推進します。国内外への情報発信に努め、地方政府等の会員への加入を促進します。また、中国・陝西省、韓国・忠清南道との友好提携締結10周年を契機とした新たな交流の展開に取り組めます。ウズベキスタン・サルカント州等との友好提携締結に向けた協議及び交流事業の展開について検討を進めます。

《弱みを踏まえ追い風を活かす課題》

課題名	これまでの評価、取組	今後の取組方針
文化芸術団体や個人が行う発表の場の拡充(テーマ(116))	新型コロナウイルス感染症の影響により文化芸術活動の発表の場が制限を受けるなか、オンラインでの文化芸術活動の発信に対する補助金事業の実施や、「奈良県美術展覧会」にて展示作品を公募するなど、文化芸術団体や個人が文化芸術活動を発表する場の確保に努めました。	障害の有無などに関係なく誰もが楽しめることを目指して「奈良県大芸術祭」と「奈良県障害者大芸術祭」を「奈良県みんなでのしむ大芸術祭」に一本化し、芸術文化活動の発表の場を拡充します。また、「奈良県美術展覧会」の開催や、芸術文化団体に対する補助事業を引き続き実施し、自発的・主体的な活動を促進します。

《強みで向かい風を克服する課題》

課題名	これまでの評価、取組	今後の取組方針
奈良だからこそできる音楽祭の開催(テーマ(116))	「ムジークフェストなら」では、世界遺産をはじめとする社寺等と連携した奈良ならではのコンサートや、幅広い世代が楽しめる公演を実施してきましたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止となりました。	引き続き奈良ならではのコンサートや、幅広い世代が楽しめる公演の実施により、文化芸術活動の活性化や誘客を促進するとともに、インターネットを活用したオンラインでの動画配信を導入するなど、多様な楽しみ方を検討します。
コロナ禍における国際交流の推進(テーマ(121,122))	新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延により、第11回会合をはじめ、海外への訪問団の現地派遣等については、延期せざるを得ない状況となりましたが、オンラインを活用する等、困難な状況下においても、工夫して国際交流を継続しました。	コロナ後を見据えながら、これまでの交流による深いつながりを活かし、オンラインも活用しながら、引き続き交流の推進を図ります。

《弱みを踏まえ向かい風に備える課題》

課題名	これまでの評価、取組	今後の取組方針
県立文化施設の整備・改修等(テーマ(116))	文化会館と美術館は、一体整備を行う予定でしたが、文化財発掘調査の影響を受けない文化会館について、令和5年度の着工に向けてリニューアル整備の検討を進めました。	文化会館・美術館及び周辺地域を文化ゾーンととらえて、文化的雰囲気が一体的に醸成されるような地域整備を図るため、文化会館の基本・実施設計に着手します。また、美術館のリニューアルについても、文化財発掘調査結果を踏まえて整備の方向性を検討します。